

コンクリート工学論文集原稿執筆要領

1. 原稿の執筆にあたっては、「投稿規定」の 1, 4, 6, の各項目に注目されたい。
2. 論文は 10 ページ以内とし、さらに 4 ページまでの超過が認められる。
3. 原稿は、A4 サイズの白い用紙に、必ずパソコンの文書作成ソフトで印字する。
4. テンプレートを参考に、(1)題目・著者名、(2)概要(和文、300 字程度)およびキーワード(和文、4～7 語程度)、(3)序論、(4)本論、(5)結論、(6)参考文献、(7)英文題目、(8)ローマ字綴り著者名、(9)Synopsis(100Words 程度)および Keywords の順で原稿用紙に記入する。
5. 1 ページの行数は 25 字×49 字×2 段組に設定し、余白は上 22mm、下 22mm、左 22mm、右 22mm に指定して作成する。本文の級数は 9 ポイントでフォントは MS 明朝体(またはこれに類似したもの)を用いる。使用する句読点は「、」と「。」とし、いずれも全角で使用する。
6. 本文、図・表・写真とも原稿用紙の枠内に必ず収めること。
7. 題目

- (1) 題目は級数を 20 ポイントとし、上枠から 3 行空け、左右中央に位置するように印字する。
- (2) 明瞭・簡潔で内容を的確に表すものとする。
- (3) 一連の研究であることを示す(その 1)、(その 2)などは認められない。連続して数編応募する予定でも各編がそれぞれ完結したものとする。

8. 著者名

- (1) 著者は原則として 4 名以内とする。
- (2) 著者名は、題目から行間が 2 行空きとなるようにして、左右中央に印字し、著者名の右肩に*印(脚注を示す、著者が複数の場合は*と番号を数字で示す)を付ける。なお、著者名は人数により下記のとおり印字する。
 - 1) 一人の場合: ○ ○ ○ ○*¹
 - 2) 二人の場合: ○○ ○○*¹・○○ ○○*²
 - 3) 三人の場合: ○○ ○○*¹・○○ ○○*²・○○ ○○*³
 - 4) 四人の場合: ○○○○*¹・○○○○*²・○○○○*³・○○○○*⁴
- (3) 脚注に示す著者の所属は、級数を 7 ポイントとし、第 1 ページ目の左段下に本文から 1 行空けてラインを引き、その下に下記のように*1 などの識別番号、勤務先、役職名、学部学科名(部課名)、学位、正会員・非会員の区別、住所の順序で印字する。その際、枠からはみ出さないよう注意する。

[例] *1 ○○大学教授 ○○部○○学科 工博(正会員)〒102-0083 東京都千代田区麴町 1-7

*2 ○○○大学大学院院生 工学研究科○○工学専攻(正会員)〒102-0083 東京都千代田区麴町 1-7

*3 ○○○(株)技術研究所主任研究員 修(工) (正会員)〒102-0083 東京都千代田区麴町 1-7

9. 概要・キーワード

著者名の次に 300 字程度の概要と 4～7 語程度のキーワードを必ずつける。なお、概要、キーワードは級数を 8 ポイント、フォントは MS 明朝体とし、左右の枠線から 3 字空けた 1 段組とし、左右中央に印字する。

- 1) 著者名と概要との間には行間が 1 行空きになるように印字する。
- 2) キーワードは概要の下に続けて印字する。キーワードの下は行間を 2 行空きとする。

10. 本文

- (1) 章の見出しは級数を 10 ポイントとし、左端からキーワードから 2 行空きで印字する。字体はゴシック体で印字する。
- (2) 節の小見出しの級数は本文と同じく 9 ポイントとし、左端から 1 字空きで、字体はゴシック体で印字する。
- (3) 項の見出しは左端から 1 字空きで、() は全角文字を使用する。

(4) 箇条書き

- 1) 改行する場合は一字空けではじめ、
 - 1)
 - 2)
 - 3) とする。
- 2) 文中に組み込む場合は
....., (1)....., (2)....., (3)....., とする。

(5) 数式

- 1) 極力簡単にまとめる。
- 2) 式は 3 字空けてから書き出す。
- 3) 式番号は(1), (2), (3)とし、式の最後に右寄せにして記す。
- 4) 数式中の変数は斜体文字を用いる。
- 5) 文中での呼称は式(1), 式(2), 式(3) とする。

(6) 記号

- 1) できるだけ一般的なものを用い、最初に記した箇所でその定義を明らかにする。
- 2) 判読上まぎらわしいもの(大文字・小文字が同形のものや異字間で形が似通っているものなど)は、その区別を明瞭にする。特に、下付または上付にすべきものは、はっきりと示すこと。

(7) 単位

原則として SI 単位系に統一する。ただし、引用文献等において、SI 単位を使用していない場合のみに限る。

11. 図・表・写真

- 1) いずれも単独で意味が十分通じるようにまとめ、それぞれできるかぎり簡潔なキャプション(説明文)を付し、和文か英文に統一する。
- 2) 図・表・写真の挿入は最小限に留める。

- 3) 図・表は、本文の引用箇所に近い所に配置する。ページまたは段の幅一杯に配置し、これらの左右に文章は記載しないこと。
また、図・表中の文字の級数は7ポイント以上で印字する。
- 4) 図・表・写真は本文から1行空けた後に印字または貼付する。図・写真の番号・タイトルは、図・写真(位置)の下に、表の番号・タイトルは上に記入し、級数は8ポイント、和文フォントはMSゴシック体、英文のフォントはArial(またはこれに類似したもの)で印字する。
- 5) 呼称はそれぞれ以下のとおりとし、章ごとに番号を分けずに通し番号とする。
和文の場合→ 図-1, 表-1, 写真-1
英文の場合→ Fig.1, Table 1, Photo 1
- 6) 著作権のある図・表・写真を借用する場合は、論文および討議への転載と電子公開への再転載の許諾について、事前に原著者および発行所の了解を投稿者の責任において得ておくこと。また、その出典を参考文献の記載方法に従い、明記すること。

12. 参考文献

- (1) 参考文献は級数を7ポイントとする。
- (2) 引用または参考とした文献名は、使用順に番号を振り、結論のあとに参考文献としてまとめて掲げる。なお、参考文献の末尾は、左右の段をできるだけ揃えるように印字する。
- (3) 文献番号は、本文中または引用した図・表・写真のキャプション(説明文)の最後に上付数字で1), 2), 3),のように明記しておく。
- (4) 記載方法
 - 1) 論文等の場合
著者名(姓名): 題名, 誌名, Vol., No., 掲載ページ, 発行年月の順とする。
 - 2) 単行本の場合
著(編)者名(姓名): 書名, 発行所名, 掲載ページ, 発行年月の順とする。
- (5) 記載例
[例] (1) Davis, J. M. : Simplified Diaphragm Analysis, J. of Structural Div., ASCE, Vol.103, pp.2093-2103, Nov., 1977
(2) Shanley, F.R.: Basic Structures, John Wiley & Sons Inc., pp.291-304, 1947
(3) 春野秋雄・横田英治: 無塩化・無アルカリ型防凍結性混和剤による初期凍害の防止効果, コンクリート工学論文集, Vol.7, No.1, pp.113-122, 1996.1
 - 1) 著者名の表記については次のようにする(英文の場合)。
著者が1人の場合
Diamond, S. (姓が先でカンマの後に名前)
著者が2人の場合
Diamond, S. and Berney, R. S.
著者が3人の場合
Diamond, S., Berney, R. S. and Struble, L. J.
著者が4人以上の場合
Diamond, S. et al. (1人目だけ名をあげ, その他は et al.とする)

13. 英文概要

参考文献の1行下に0.5ポイントの罫線を引き、そこから1行空けて、題目・著者名・掲載巻号・英文概要・英文キーワードを記す。なお、この部分は1段組で印字する。フォントはTimes New Roman(またはこれに類似するもの)を使用する。

- 1) 英文題目は、級数10ポイントで左右中央に印字する。
- 2) 著者名は、級数9ポイントで斜体の文字で記し、左右中央に印字する。
- 3) 掲載巻号は、級数8ポイントで左右中央に印字する。なお、これは掲載号決定後、既に印刷用原稿提出時に記入する。
- 4) 英文概要本文は級数9ポイント、左右空きマスなしで印字する。
- 5) 英文キーワードは英文概要の次の行から級数9ポイント、左右空きマスなしで印字する。

14. その他

- 1) 原稿受付日は、原稿が公益社団法人 日本コンクリート工学会に届いた日付とする。
- 2) 原稿提出後の修正および採択後の校正段階での大幅な書き足し、書き改めは認められないので、事前に十分推敲し、‘執筆要領’と‘投稿規定’の記載事項を再度確認のうえ提出のこと。